

富山県の「新たながん診療体制」について

富山県健康課

平成26年度までの「富山型がん診療体制」

- 本県では、10のがん診療連携拠点病院（国指定8病院+県指定2病院）が、各病院の得意分野である部位別機能を活かしながら連携協力し、県全体のがん医療の均てん化や、がん医療水準の向上を図ってきた。
- 県の拠点病院である県立中央病院は、連携の中心的役割を担うとともに、県全体のがん診療体制の充実に努めてきた。
- 特定機能病院・人材育成拠点病院である富山大学付属病院は、高度先端医療を提供するとともに、県全体のがん診療人材の育成に努めてきた。

高齢化の進展に伴うがん患者の増

- 団塊世代が75歳以上になる平成37年には、がん罹患者数は現在の約1割増の1万人にほぼ達すると試算されている。
- 今後の高齢がん患者増加を見据え、県民があまねく適切ながん医療を享受できるよう、がん診療体制のさらなる充実が必要。

「診療体制部会」の意見

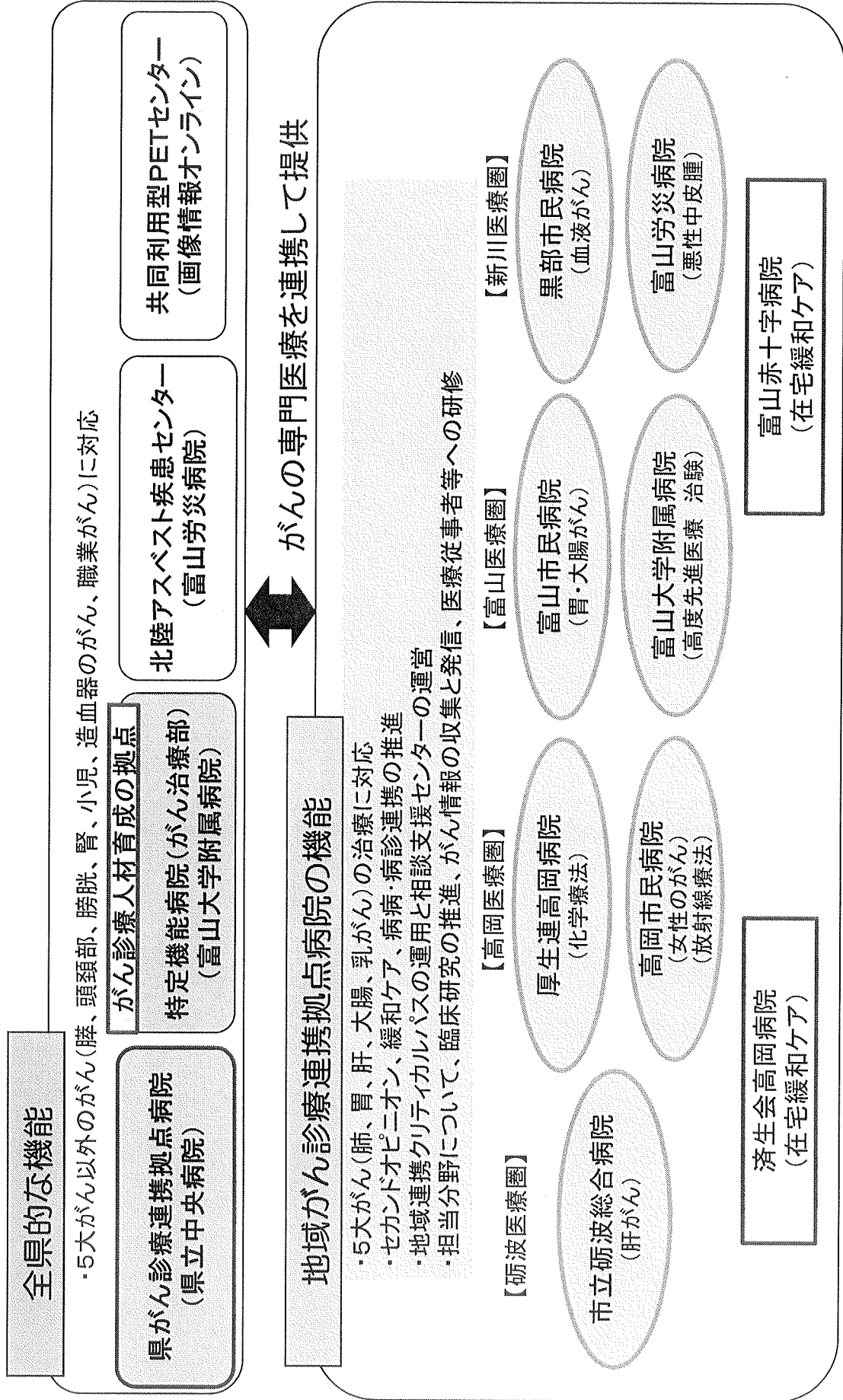
- 平成27年度からの国指定拠点病院の推薦にあたり、県がん対策推進協議会「診療体制部会」において、各病院の診療実績等について個別にヒアリングを実施し、その結果を踏まえ、昨年10月に次のとおり部会において意見書をまとめられた。
 - ① 本県の各拠点病院間の診療実績等に差が生じている
 - ② 病院の部位別機能は患者ニーズに沿った形での実績を十分に上げきれていない
 といった課題があり、部位別担当病院の撤廃を行い、実態に沿ったがん診療体制の構築を求める。

富山県の「新たながん診療体制」

- 引き続き、10病院（国指定7病院+県指定3病院）が連携協力し、病院毎の特性を活かしながら、二次医療圏毎に、集学的医療、緩和ケア、在宅療養支援を提供できる体制を構築。
- 県立中央病院は、連携の中心的役割を担うとともに、県全体のがん診療体制のさらなる充実に向け、高度画像診断センター、内視鏡センター等を整備。
- 富山大学付属病院は、高度先端医療を提供するとともに、専門看護師教育課程で「がん専門看護師」を養成するなど、県全体のがん診療人材の育成を推進。

これまでの富山型がん診療体制

国の指定を受けているがん診療連携拠点病院(8病院)と、県独自指定の2病院、PETセンターが連携した「富山型がん診療体制」により、県全体のがん医療の均てん化やがん医療水準の強化を図る。



富山県の新たながん診療体制

